

## 待降節第三主日

2018.12.16

ルカ 3・10-18

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高神父

待降節第三主日を迎え、何かと心せく日常の中で、今日の聖書のみことばがわたしたちに呼びかけているように、わたしたちのもとに来てくださり、わたしたちとともにいくださるお方に向かって、わたしたちの心に向けてゆきたいと思ひます。喜びをもって、喜びのうちに心に向けてゆきたいと思ひます。喜びをもって、喜びのうちにと申しましたが、ここに待降節の靈性、待降節の心を生きたための鍵があります。わたしたちのもとに来てくださり、わたしたちとともにいてくださると、おっしゃっておられるお方を、喜びをもって、喜びのうちに迎えすることが出来るためには、わたしたちの心をそのお方に向かって、しっかりと方向づけなければなりません。

わたしたちを取り巻き、わたしたちがその中に生きている現実だけに目を向け、それだけに心も魂も奪われたままでは、決して心底、喜びをもって、喜びのうちに、わたしたちのもとに来てくださろうとしておられるお方を迎える気にはなれません。ここに、待降節の靈性を生きた難しさがあります。わたしたちは、わたしたちの力だけによっては、わたしたちのもとに来てくださるお方を喜びのうちに迎えすることは出来ないのです。わたしたちの心に纏いつき、わたしたちの心を脅かしている現実の世界と現実の生活の厳しさと、そこから生じる不安はいともたやすくわたしたちの心から喜びを消し去り、来てくださるとおっしゃっておられるお方への希望を打ち砕いてしまうからです。

喜びをもって、喜びのうちにわたしたちのもとに来てくださるお方をお迎えしようという待降節の呼びかけは、このようなわたしたちの世界の現実とその中に生きるわたしたちの生活の現状を無視しているのではありません。むしろ、そのようなわたしたちの現実の世界の中に、わたしたちの現実の日々の生活の中に、わたしたちが待ち望んでいる、わたしたちに救いをもたらすお方が来てくださると宣言しているのです。

わたしたちはキリスト教の信仰を生きたものとして、わたしたちのもとに来てくださるお方が、わたしたちにもたらしてくださった救いがどのようなものであるかを知っているはずです。わたしたちのもとに来てくださるお方は、わたしたちのこの現実の世界と、現実の生活の只中に来てくださり、わたしたちに神の愛とはどのようなものであるかを示してくださったのです。わたしたちのもとに来てくださるわたしたちの主イエス・キリストがわたしたちの現実の

中で宣言してくださったことは、たとえこの世界の全ての人が、このような現実  
に疲れ、このような現実を憎み、絶望の淵に沈んでも、この世界の真の創造  
主である父なる神は決してこの世界とそこに住む一人ひとりのわたしたちの現  
実を見捨ててはおられないということです。そのことをわたしたちに示すため  
に、その愛をもってこの世界の全てを包むお方が、このわたしたちの現実の世  
界にその一員となって包み込まれるために、わたしたちのもとに来てくださ  
ったのです。そのお方をわたしたちのそれぞれの現実の中に、心も新たに喜びを  
もって、喜びのうちにお迎えすること、待降節の霊性とは、わたしたちがわた  
したちのもとに来てくださるお方に目を向けて、そのような心になれることを、  
ひたすらに願うということです。

今日の福音は、このような待降節の霊性を生きるための模範としての洗礼者  
ヨハネの姿とそのメッセージを、わたしたちに思い起こさせます。福音書に描  
かれているヨハネの姿は、ただ一本の指になりきることによってわたしたちの  
もとに来てくださるお方を指し示しているように思えます。ヨハネが指し示し  
ている、わたしたちのもとに来てくださるお方は、聖霊と火による洗礼を授け  
てくださるお方です。聖霊と火による洗礼をもってわたしたちのもとに来てく  
ださいお方は、それによって何をしてくださるのでしょうか。わたしたちの現  
実の中で真に神の国の倉に収められる実を集めてくださり、わたしたちの現実  
の中の燃やし尽くされるべきものを全て火に投げ入れて清めてくださるのです。  
わたしたちの何が神の国の倉に収められ、何が燃やし尽くされるべきかの判断  
は、わたしたちが決めることではなく、わたしたちのもとに来てくださるお方  
がなさることです。こうしてわたしたちは、わたしたちのこの現実を生きる生  
活の全てを、わたしたちのもとに来てくださるお方の判断におゆだねすること  
が出来るのです。わたしたちがこのことを受け入れることが出来る時、わたし  
たちはそのすがすがしさを知ることが出来、真に喜びに満たされることが出来  
ることでしょう。この現実の世界の中でわたしたちを苦しめているものは、現  
実の厳しさもさることながら、このような現実とそれを生きねばならないわた  
したちの生活にどのような意味があるのか、その意味を見出せないということ  
ではないかと思えます。分からないままでいい、分からないまでもその判断を  
おゆだねすることが出来るお方と出会えたこと、その喜びを知ることが出来た  
時、わたしたちはこの現実に身を置きつつ、そこから解放されて、真実、わた  
したちのもとに来てくださった、わたしたちの主イエス・キリストを喜びを  
もってわたしたちの中にお迎えすることが出来るのです。

待降節の霊性とは、わたしたち一人ひとりが、このようなわたしたちの信じ  
る信仰の極意と、それを身につける術を知って、どのような現実を前にしても、

わたしたちが信じる、わたしたちのもとに来てくださったお方の限りない力に信頼して前向きに生き続けるということです。現実に行き詰まっている全ての兄弟たちのことを思いながら、わたしたちがともに信じるこの待降節の信仰が、その兄弟たちを励まし、力づけるように願いをこめて、今日の待降節第三主日のミサをおささげしたいと思います。